

レビュー文献（研究タイプ）

介入研究

1. 浅川真凜, 富田駿, 上村朋美, 加藤宗規, 山崎裕司. Pusher 現象を呈する重度片麻痺患者に対する座位保持練習. 高知リハビリテーション専門職大学紀要 2020; 1:41-43. https://doi.org/10.15028/kochirehadai.1.0_41
2. 遠藤有紗, 鈴木誠, 千葉直之. 進行性核上性麻痺患者に対する逆方向連鎖法を用いた起き上がり動作練習. 行動リハビリテーション 2013; 2:31-37. https://doi.org/10.60218/kodoreha.2.0_31
3. 古川知早十, 上村朋美, 加藤宗規, 山崎裕司. マシーンを用いた体幹前傾運動が起立動作に及ぼす影響 - Pusher 現象を呈した重度片麻痺患者における検討. 行動リハビリテーション 2020; 9:15-17. https://doi.org/10.60218/kodoreha.9.0_15
4. 古川知早十, 加藤宗規, 山崎裕司, 上村朋美, 辛寿全, 辛秀雄. 理学療法を拒否したコミュニケーション困難な片麻痺患者に対する介入 - ユニフォームが条件性嫌悪刺激化した症例. 高知リハビリテーション専門職大学紀要 2023; 4:31-35. https://doi.org/10.15028/kochirehadai.4.0_31
5. 市川祐生, 杉元歩実, 山崎裕司. 遷延性の意識障害を伴った片麻痺者に対する起き上がり動作練習. 行動リハビリテーション 2017; 6:13-17. https://doi.org/10.60218/kodoreha.6.0_13
6. 市川祐生, 山崎裕司. 立ち上がりが困難な重症片麻痺患者に対する段階的難易度設定を用いた移乗動作練習. 行動リハビリテーション 2025; 13:13-17.
7. 井尾いず美, 加藤宗規, 辛秀雄. 絵カード呼称練習における文字教示と賞賛の効果 - 重度の運動性失語症患者を対象として. 行動リハビリテーション 2015; 4:32-37. https://doi.org/10.60218/kodoreha.4.0_32
8. 一本柳千春, 富田駿, 加藤宗規, 山崎裕司. 認知症を合併した進行性核上性麻痺患者に対する起き上がり練習. 高知リハビリテーション専門職大学紀要 2020; 1:45-48. https://doi.org/10.15028/kochirehadai.1.0_45
9. 一本柳千春, 荒井沙織, 加藤宗規, 山崎裕司. 高次脳機能障害を伴う片麻痺患者に対するトイレ下衣操作練習 - 応用行動分析学的介入の効果. 高知リハビリテーション専門職大学紀要 2021; 2:13-18. https://doi.org/10.15028/kochirehadai.2.0_13
10. 金子涼香, 加藤宗規, 辛秀雄. 時間遅延法では上衣の着衣が困難であった重度片麻痺患者に対するプロンプト・フェイディング法の適応. 行動リハビリテーション 2019; 8:13-15. https://doi.org/10.60218/kodoreha.8.0_13
11. 川口沙織, 加藤宗規, 辛秀雄. Pusher 症状を呈した重度右片麻痺患者に対する立位練習 - 下腿クッショングを用いた健側下肢外転の防止. 行動リハビリテーション 2015; 4:21-25. https://doi.org/10.60218/kodoreha.4.0_21
12. 川口沙織, 丸山仁司, 久保晃, 加藤宗規. 急性期 Pusher 症状に対する段階的難易度調整を用いた立位練習がトイレ動作介助量に及ぼす影響. 行動リハビリテーション 2018; 7:2-5. https://doi.org/10.60218/kodoreha.7.0_2
13. 川口沙織, 加藤宗規, 山崎裕司. 逆方向連鎖化の技法を用いた食事動作練習 - 重度失調症を合併したリウマチ患者での検討. 行動リハビリテーション 2020; 9:12-14. https://doi.org/10.60218/kodoreha.9.0_12
14. 川村立, 森下浩光, 山崎裕司. 認知症患者の BPSD に対する応用行動分析学的介入. 行動リハビリテーション 2019; 8:16-18. https://doi.org/10.60218/kodoreha.8.0_16
15. 小嶋智子, 鈴木誠. 日常生活動作全般に介助を要した脳卒中患者に対する動作練習. 行動リハビリテーション 2012; 1:23-29. https://doi.org/10.60218/kodoreha.1.0_23
16. 久郷聰太, 加藤宗規, 山崎裕司, 上村朋美, 成毛修平, 宗像涼矢, 辛寿全, 辛秀雄. 重度 Pusher 症状を呈した片麻痺症例に対する立位練習 - 非麻痺側下肢への長下肢装具装着の効果. 行動リハビリテーション 2024; 12:16-19. https://doi.org/10.60218/kodoreha.12.0_16
17. 熊切博美, 大森圭貢. 訪問型介護予防事業における理学療法 - 応用行動分析学的アプローチが身体機能と行動変容に与える影響. 行動リハビリテーション 2018; 7:6-13. https://doi.org/10.60218/kodoreha.7.0_6
18. 國本拓馬, 高梨晃, 塩田琴美, 榎本亜矢, 田畠沙耶香, 原田豊, 柴崎寛弥, 榎本雄介, 山崎裕司, 加藤宗規. 変形性膝関節症患者に対する理学療法介入における ADL 能力と身体因子の変化. 高知リハビリテーション専門職大学紀要 2023; 4:11-18. https://doi.org/10.15028/kochirehadai.4.0_11
19. 松井剛, 岡庭千恵, 伊藤悠二, 加藤宗規. 全失語によって指示理解不可能でコンプライアンスが著しく低い症例に対するトイレ動作練習 - 難易度調整を併用した行動連鎖法による介入. 行動リハビリテーション 2013; 2:18-24. https://doi.org/10.60218/kodoreha.2.0_18
20. 松井剛, 加藤宗規, 辛秀雄. 拒否的な患者に対する起立歩行訓練 - 喫煙を強化刺激とした介入. 行動リハビリテーション 2014; 3:43-48. https://doi.org/10.60218/kodoreha.3.0_43
21. 松井剛, 加藤宗規. 拒否的な認知症患者に対する介入 - 強化刺激としての身体接触の有用性. 行動リハビリテーション 2015; 4:2-7. https://doi.org/10.60218/kodoreha.4.0_2
22. 松井剛, 加藤宗規. リハビリテーション拒否を続ける認知症患者に対するアイスを報酬とした介入. 行動リハビリテーション 2017; 6:23-27. https://doi.org/10.60218/kodoreha.6.0_23
23. 南裕貴, 大森圭貢, 小野雅之. 高次脳機能障害を合併した重度片麻痺患者に対する移乗動作練習 - 段階的難易度調節を用いた介入. 行動リハビリテーション 2018; 7:21-25. https://doi.org/10.60218/kodoreha.7.0_21
24. 宮下華奈, 加藤宗規, 山崎裕司. 着座動作中の Pusher 症状に対する部分練習の効果 - 重症片麻痺者での検討. 行動リハビリテーション 2018; 7:14-17. https://doi.org/10.60218/kodoreha.7.0_14
25. 宮崎登美子, 山崎裕司, 栗山裕司, 平賀康嗣, 稲岡忠勝, 片山訓博, 重島晃史, 柏智之. 上方への牽引が閉眼片脚立位時間に及ぼす影響. 高知リハビリテーション専門職大学紀要 2020; 1:59-61. https://doi.org/10.15028/kochirehadai.1.0_59

1.0_59

26. 宮崎登美子, 柏智之, 稲岡忠勝, 山崎裕司. 足関節背屈角度の変化がしゃがみ込み動作時の重心位置に及ぼす影響. 高知リハビリテーション専門職大学紀要 2022: 3:33-36. https://doi.org/10.15028/kochirehadai.3.0_33
27. 最上谷拓磨, 大森圭貢, 佐々木祥太郎, 清水弘之. 四肢不全麻痺患者の起き上がり動作に対する応用行動分析学的介入. 行動リハビリテーション 2014: 3:79-83. https://doi.org/10.60218/kodoreha.3.0_79
28. 最上谷拓磨, 大森圭貢, 川名部恵理, 佐々木祥太郎, 中茎篤, 近藤千雅, 大宮一人. 対象肢を視野内へ入れた運動教示は重度半側空間無視を呈する患者の対象肢の標的動作の発現回数を増加させるか. 行動リハビリテーション 2016: 5:31-35. https://doi.org/10.60218/kodoreha.5.0_31
29. 森下浩充. すぐに使える介入パッケージ - ASD児に対する強化学習を用いた介入. 行動リハビリテーション 2022: 10:35-38. https://doi.org/10.60218/kodoreha.10.0_35
30. 村上大誠, 東部晃久, 小諸信宏, 山崎裕司, 加藤宗規. 疼痛により起立・着座動作が困難であった腰椎圧迫骨折患者に対する介入 - 疼痛を基準とした段階的難易度調整に基づく起立・着座練習. 行動リハビリテーション 2023: 11:18-22. https://doi.org/10.60218/kodoreha.11.0_18
31. 中島秀太, 加藤宗規, 辛秀雄. 重度片麻痺と全失語を呈した症例に対するプロンプトフェイディング法と時間遅延法を併用したトイレ動作練習の効果についての検討. 行動リハビリテーション 2014: 3:62-66. https://doi.org/10.60218/kodoreha.3.0_62
32. 中島秀太, 加藤宗規, 大山匠, 富田駿, 隆杉亮太, 松井剛, 辛秀雄. 半側空間無視を合併した重度左片麻痺症例に対する段階的難易度調整による歩行訓練の効果. 行動リハビリテーション 2016: 5:11-17. https://doi.org/10.60218/kodoreha.5.0_11
33. 中村恵理, 鈴木誠. 筋力低下により身辺動作障害を来たした症例. 行動リハビリテーション 2012: 1:39-45. https://doi.org/10.60218/kodoreha.1.0_39
34. 中田衛樹, 岡田一馬, 山崎裕司, 土野彰久. 高次脳機能障害を呈した症例に対するギター演奏練習 - 応用行動分析学的介入により行動変化を認めた一例. 行動リハビリテーション 2017: 6:18-22. https://doi.org/10.60218/kodoreha.6.0_18
35. 中田衛樹, 山崎裕司, 岡田一馬, 鈴木裕一, 加藤駿, 宮内浩介. 脳血管障害片麻痺者の座位保持姿勢における麻痺側背筋群の筋活動の変化 - 骨盤傾斜角度が麻痺側背筋群活動に及ぼす影響 -. 行動リハビリテーション 2025: 13:28-32.
36. 中山智晴, 岩村玲那, 山崎裕司, 森野勝憲, 和田譲. 大腿骨転子部骨折を受傷した重度認知症患者に対する起居・移乗動作訓練 - 段階的難易度設定と逆方向連鎖化の技法を用いた介入. 行動リハビリテーション 2017: 6:28-31. https://doi.org/10.60218/kodoreha.6.0_28
37. 中山智晴, 佃匡人, 岩村玲那, 森野勝憲, 和田譲, 有澤雅彦, 山崎裕司. 両側片麻痺患者に対する起居・移乗動作練習 - 滑車と重錘を用いた牽引の効果. 行動リハビリテーション 2019: 8:5-9. https://doi.org/10.60218/kodoreha.8.0_5
38. 中山智晴, 佃匡人, 森野勝憲, 和田譲, 山中紀夫, 山崎裕司. 頸髄不全損傷患者 2 症例に対する牽引を用いた起き上がり練習. 高知リハビリテーション専門職大学紀要 2020: 1:35-40. https://doi.org/10.15028/kochirehadai.1.0_35
39. 中山智晴, 佃匡人, 森野勝憲, 和田譲, 山中紀夫, 山崎裕司. 頸髄損傷患者に対する牽引を用いた立ち上がり練習. 高知リハビリテーション専門職大学紀要 2020: 1:29-33. https://doi.org/10.15028/kochirehadai.1.0_29
40. 中山智晴, 佃匡人, 森純氣, 山崎裕司, 有澤雅彦, 古谷博和. 超高齢重度片麻痺患者に対する牽引を用いた起き上がり練習. 高知リハビリテーション専門職大学紀要 2021: 2:19-25. https://doi.org/10.15028/kochirehadai.2.0_19
41. 中山智晴, 山崎裕司, 古谷博和. 認知症を有する重度パーキンソン病患者に対する - 段階的難易度設定の技法を用いた起居動作練習. 高知リハビリテーション専門職大学紀要 2023: 4:37-40. https://doi.org/10.15028/kochirehadai.4.0_37
42. 中山智晴, 山崎裕司, 古谷博和. 認知症を有する重度パーキンソン病患者の立ち上がり動作練習 - 跡の補高とテープによる視覚的キーを用いた介入. 高知リハビリテーション専門職大学紀要 2023: 4:27-30. https://doi.org/10.15028/kochirehadai.4.0_27
43. 中山智晴, 堅田明靖, 森純氣, 和田譲, 有澤雅彦, 山崎裕司, 松下拓也. 段階的難易度設定による片麻痺者の歩行練習 - 健側下肢による患側下肢の振出し. 行動リハビリテーション 2024: 12:27-31. https://doi.org/10.60218/kodoreha.12.0_27
44. 中山智晴, 山崎裕司, 鈴木誠, 山本淳一, 松下拓也. すぐみ足改善を目的としたパーキンソン病患者への立位・歩行練習パッケージ - 身体運動とパフォーマンスの変化 -. 行動リハビリテーション 2025: 13:22-27.
45. 西村涼, 加藤宗規, 山崎裕司, 畠中愛, 上村朋美, 荒井沙織, 辛寿全, 辛秀雄. 重症高次脳機能障害を有する片麻痺者に対するトイレ内立位保持練習. 行動リハビリテーション 2023: 11:32-35. https://doi.org/10.60218/kodoreha.11.0_32
46. 西村祐祐, 山崎裕司. 遅延した筋力低下を呈した慢性期ギラン・バレー症候群患者に対する起き上がり練習 - 段階的難易度設定と逆方向連鎖化の技法を用いた介入 -. 行動リハビリテーション 2025: 13:18-21.
47. 大口明子. すぐに使える介入パッケージ - 摂食嚥下障害. 行動リハビリテーション 2022: 10:26-30. https://doi.org/10.60218/kodoreha.10.0_26
48. 岡田一馬, 山崎裕司, 山崎倫, 佐伯茂行, 大森貴允, 富岡真光. 逆方向連鎖化の技法を用いた起居動作練習の効果 - 認知症を合併した重度片麻痺者における検討. 行動リハビリテーション 2014: 3:37-42. https://doi.org/10.60218/kodoreha.3.0_37
49. 岡庭千恵, 加藤宗規, 辛秀雄. 起立・歩行練習のコンプライアンスが著しく低下していた認知症患者に対する介入. 行動リハビリテーション 2014: 3:67-73. https://doi.org/10.60218/kodoreha.3.0_67
50. 大山匠, 鈴木誠, 渡辺愛記. 脳血管障害患者に対するプロ

- ンプトを統制した行動練習 - 3症例の臨床的検討. 行動リハビリテーション 2016; 5:26-30. https://doi.org/10.60218/kodoreha.5.0_26
51. 立仙志帆, 公文康輔, 佐々木愛理, 中山智晴, 有澤雅彦, 山崎裕司. 着衣障害を呈した重度片麻痺患者に対する上衣更衣練習 - 色彩の一致を利用した無誤学習過程の創出 -. 行動リハビリテーション 2025; 13:8-12.
52. 斎藤和夫, 鈴木誠, 磯直樹, 別府奈洋, 在原菜々花, 趙吉春, 岡部拓大, 東恩納拓也, 山本淳一. 動作部位への視覚的注意計測技術を用いた行動観察スキルの向上. 行動リハビリテーション 2023; 11:27-31. https://doi.org/10.60218/kodoreha.11.0_27
53. 酒井実希, 熊仁美, 加藤宗規, 山崎裕司. 発達障害児に対する「相手に両手で下からボールを投げて渡す」 - 運動獲得のための介入効果についての検討. 行動リハビリテーション 2024; 12:23-26. https://doi.org/10.60218/kodoreha.12.0_23
54. 崎山誠也, 中田裕士, 辻本悠, 山崎裕司. 重症片麻痺患者に対する座位訓練 - 麻痺側座面へのクッション挿入の効果. 行動リハビリテーション 2019; 8:19-21. https://doi.org/10.60218/kodoreha.8.0_19
55. 佐々木寛法, 鈴木誠, 橋本友里, 渡邊愛記, 佐藤芳彦, 田代大貴, 山口真吾, 川井健彦, 田中秀宜, 小滝治美. 認知症患者に対する行動練習 - 4症例の臨床的検討. 行動リハビリテーション 2016; 5:44-48. https://doi.org/10.60218/kodoreha.5.0_44
56. 佐々木祥太郎, 鈴木誠, 杉村誠一郎, 阿部直人, 時任孝英, 大森圭貢. 集中治療室において筋力低下とせん妄を発症した患者に対する介入. 行動リハビリテーション 2019; 8:22-24. https://doi.org/10.60218/kodoreha.8.0_22
57. 杉村誠一郎, 鈴木誠, 大森圭貢, 畠山真弓, 中館美保子, 杉村裕子, 笹益雄. 上肢骨折患者の自宅訓練におけるコンプライアンスと訓練効果. 行動リハビリテーション 2012; 1:30-38. https://doi.org/10.60218/kodoreha.1.0_30
58. 杉村誠一郎, 鈴木誠, 佐々木祥太郎, 阿部直人, 時任英孝, 山本淳一. 脳血管障害患者に対する系統的プロンプト・フェイディングを活用したズボン着衣練習. 行動リハビリテーション 2023; 11:2-6. https://doi.org/10.60218/kodoreha.11.0_2
59. 杉野貴俊, 加藤宗規, 山崎裕司. 片麻痺患者の足尖の引きずりに対する介入 - クリック音による即時のフィードバックの効果. 行動リハビリテーション 2019; 8:10-12. https://doi.org/10.60218/kodoreha.8.0_10
60. 杉野貴俊, 山崎裕司, 加藤宗規. 連続歩行距離の延長を目的とした片麻痺患者の歩行練習 - ルール制御理論に基づく介入. 高知リハビリテーション専門職大学紀要 2021; 2:39-43. https://doi.org/10.15028/kochirehadai.2.0_39
61. 多田実加, 大森圭貢, 佐々木祥太郎, 清水弘之. 外来パーキンソン病患者の歩行距離延長に対するフィードバックの効果. 行動リハビリテーション 2014; 3:74-78. https://doi.org/10.60218/kodoreha.3.0_74
62. 高橋一将. 段階的な難易度設定を用いた起立練習 - 失敗と拒否的な発言数に着目して. 行動リハビリテーション 2016; 5:39-43. https://doi.org/10.60218/kodoreha.5.0_39
63. 隆杉亮太, 山崎裕司, 加藤宗規. 臨床実習生に対する移乗介助指導における動画の効果 - 動画を用いた先行刺激, 後続刺激の整備. 行動リハビリテーション 2016; 5:36-38. https://doi.org/10.60218/kodoreha.5.0_36
64. 東部晃久, 坂本雄, 山崎裕司. 注意障害を合併した慢性期片麻痺患者の足部引きずりに対する応用行動分析学的介入 - 視覚的教示とフィードバックの効果. 高知リハビリテーション専門職大学紀要 2021; 2:45-48. https://doi.org/10.15028/kochirehadai.2.0_45
65. 富田駿, 井尾いず美, 加藤宗規. 失語を有する片麻痺患者に対する応用行動分析学的技法を用いた起居・移乗動作練習. 行動リハビリテーション 2015; 4:26-31. https://doi.org/10.60218/kodoreha.4.0_26
66. 富田駿, 中島秀太, 松井剛, 加藤宗規, 山崎裕司. 失語症を有する重度片麻痺患者に対する寝返り動作練習 - 下肢拳上による難易度調整を用いて. 行動リハビリテーション 2016; 5:2-5. https://doi.org/10.60218/kodoreha.5.0_2
67. 鳥居美里, 崎山誠也, 中田裕士, 山崎裕司. 健側凸の脊柱姿勢による座位・立位練習の効果 - 意識障害、高次脳機能障害を合併した重度片麻痺患者を対象として. 行動リハビリテーション 2023; 11:14-17. https://doi.org/10.60218/kodoreha.11.0_14
68. 内野利香, 加藤宗規. 重度片麻痺患者に対する起き上がり動作練習 - ベッドの背上げ機能を利用した段階的難易度調整の導入. 行動リハビリテーション 2018; 7:18-20. https://doi.org/10.60218/kodoreha.7.0_18
69. 上村朋美, 松井剛, 加藤宗規. 理学療法拒否を続けていた患者に対する介入 - 環境調整の影響. 行動リハビリテーション 2015; 4:14-20. https://doi.org/10.60218/kodoreha.4.0_14
70. 上村賢, 桂下直也, 谷永章子, 梶木澤咲恵, 遠藤晃祥, 鈴木誠. 身体機能評価結果のフィードバックが - ホームエクササイズ実施回数に及ぼす効果. 行動リハビリテーション 2016; 5:18-25. https://doi.org/10.60218/kodoreha.5.0_18
71. 上村朋美, 山崎裕司, 加藤宗規. 写真と時間遅延法を用いた道順学習 - 左半側空間無視・右同名半盲・認知症を合併した症例. 高知リハビリテーション専門職大学紀要 2021; 2:27-31. https://doi.org/10.15028/kochirehadai.2.0_27
72. 上薗紗映, 加藤宗規. 統合失調症を有する脊髄不全損傷患者に対するトークンを用いた歩行訓練. 行動リハビリテーション 2014; 3:53-57. https://doi.org/10.60218/kodoreha.3.0_53
73. 矢作満. 運動障害性構音障害患者に対する身体接触の有効性 - 失声状態と拒否的言動に対するアプローチ. 行動リハビリテーション 2013; 2:38-42. https://doi.org/10.60218/kodoreha.2.0_38
74. 矢作満. 維持期の失語症者に対する音読訓練. 行動リハビリテーション 2014; 3:58-61. https://doi.org/10.60218/kodoreha.3.0_58
75. 矢作満. 生活期の高次脳機能障害者に対する宿題の定着化に向けたアプローチ. 行動リハビリテーション 2015; 4:8-13. https://doi.org/10.60218/kodoreha.4.0_8

76. 矢作満. 食形態が認知症により摂食嚥下障害を呈した患者の摂食量に与える影響. 行動リハビリテーション 2016: 5:6-10. https://doi.org/10.60218/kodoreha.5.0_6
77. 矢作満. 引きこもりがちな失語症者の散歩時間延長への取り組み - ポケモンGOの利用. 行動リハビリテーション 2023: 11:23-26. https://doi.org/10.60218/kodoreha.11.0_23
78. 山本純平, 岡田一馬, 坂東文博, 山崎裕司. 膝伸展筋力, 立位バランス能力の回復過程と歩行・立ち上がり能力の関連 - ステロイドの大量投与後に極度の筋力低下を呈した症例での検討. 行動リハビリテーション 2024: 12:20-22. https://doi.org/10.60218/kodoreha.12.0_20
79. 山中大河, 崎山誠也, 山崎裕司. 認知症を合併した重症片麻痺患者に対する座位練習. 高知リハビリテーション専門職大学紀要 2022: 3:23-26. https://doi.org/10.15028/kochirehadai.3.0_23
80. 山崎正啓, 三浦千明, 西村友秀, 矢作満, 山崎裕司. 重度認知症患者の暴言・拒食行動に対する応用行動分析学的介入. 行動リハビリテーション 2018: 7:26-28. https://doi.org/10.60218/kodoreha.7.0_26
81. 山崎裕司, 五藤沙矢佳, 稲岡忠勝, 宮崎登美子, 柏智之. プロンプトを利用した想起記録方法の効果 - 黙読による記録方法との比較. 行動リハビリテーション 2020: 9:24-26. https://doi.org/10.60218/kodoreha.9.0_24
82. 山崎裕司, 山下瑞歩, 山本茉奈, 宮崎登美子, 柏智之. 運動再現性における身体的ガイドとモデリングの比較 - 膝屈曲運動における検討. 行動リハビリテーション 2020: 9:18-20. https://doi.org/10.60218/kodoreha.9.0_18
83. 山崎裕司, 宮崎登美子, 柏智之, 稲岡忠勝. アキレス腱に対する振動刺激が足関節背屈角度に与える影響. 高知リハビリテーション専門職大学紀要 2022: 3:41-43. https://doi.org/10.15028/kochirehadai.3.0_41
84. 山崎裕司, 柏智之, 宮崎登美子, 稲岡忠勝. 温熱療法と振動刺激の併用が下腿三頭筋の伸張性に与える影響. 行動リハビリテーション 2023: 11:7-9. https://doi.org/10.60218/kodoreha.11.0_7
85. 山崎裕司, 柏智之, 宮崎登美子. 温熱療法と振動刺激の併用が筋柔軟性に与える影響 - ハムストリングスでの検討. 高知リハビリテーション専門職大学紀要 2023: 4:41-44. https://doi.org/10.15028/kochirehadai.4.0_41
86. 吉村正美, 加藤宗規, 小諸信宏, 竹田壮. 視覚障害・認知症を有する患者に対する触覚教示と賞賛による立ち上がり動作練習 - 応用行動分析学的介入を用いた1症例. 行動リハビリテーション 2014: 3:49-52. https://doi.org/10.60218/kodoreha.3.0_49
87. 吉村未来, 岡田一馬, 中田衛樹, 山崎裕司. Pusher 現象を呈した重度片麻痺患者に対する座位練習の効果. 高知リハビリテーション専門職大学紀要 2021: 2:33-37. https://doi.org/10.15028/kochirehadai.2.0_33
88. 専門職大学紀要 2020: 1:9-15. https://doi.org/10.15028/kochirehadai.1.0_9
89. 小諸信宏, 山崎裕司, 坂本雄, 吉田智貴, 戸邊正美, 辻翔子, 片岡貞仁. 回復期における脳血管障害片麻痺患者の基本的動作自立度 - 治療成績のフィードバックと応用行動分析学に基づく基本動作練習導入の効果. 行動リハビリテーション 2019: 8:2-4. https://doi.org/10.60218/kodoreha.8.0_2
90. 松井剛, 上村朋美, 山崎裕司, 荒井沙織, 加藤宗規. 脳血管障害片麻痺患者における6分間歩行距離と下肢運動機能との関連. 高知リハビリテーション専門職大学紀要 2021: 2:7-11. https://doi.org/10.15028/kochirehadai.2.0_7
91. 松井剛, 上村朋美, 山崎裕司, 加藤宗規. 片麻痺患者におけるtimed“up and go”test - 成績の規定要因. 高知リハビリテーション専門職大学紀要 2022: 3:7-11. https://doi.org/10.15028/kochirehadai.3.0_7
92. 宮本真明, 松本卓也, 工藤大志, 上田美樹, 尼子雅美, 雨宮耕平, 鈴木誠, 長谷公隆. 脳血管障害患者のバランス能力とADL自立度の関係. 行動リハビリテーション 2012: 1:16-22. https://doi.org/10.60218/kodoreha.1.0_16
93. 岡田一馬, 中田衛樹, 高尾康平, 山下望, 青木早紀, 鈴木裕一, 東村恵理, 有田悠一郎, 佐藤友美, 山崎裕司, 木戸保秀. 脳血管障害片麻痺患者の回復期における基本動作能力の変化. 行動リハビリテーション 2017: 6:2-7. https://doi.org/10.60218/kodoreha.6.0_2
94. 大山洋平, 崎山誠也, 中田裕士, 蛭子文弥, 久松和樹, 山中大河, 斎藤那奈, 山崎裕司. 片麻痺患者の回復期における基本動作能力 - 応用行動分析学に基づく動作練習の効果. 行動リハビリテーション 2020: 9:7-11. https://doi.org/10.60218/kodoreha.9.0_7
95. 重島晃史, 片山訓博, 宮崎登美子, 山崎裕司, 山本昭子. 小学生の下肢柔軟性に影響を与える要因の横断的検討. 高知リハビリテーション専門職大学紀要 2022: 3:13-16. https://doi.org/10.15028/kochirehadai.3.0_13
96. 津田泰路, 山崎裕司, 加嶋憲作. 左右脚の片脚立位時間と実用歩行速度との関係 - 高齢入院患者における検討. 高知リハビリテーション専門職大学紀要 2020: 1:23-27. https://doi.org/10.15028/kochirehadai.1.0_23
97. 津田泰路, 山崎裕司, 加嶋憲作. 高齢入院患者の実用歩行速度獲得要件の検討. 高知リハビリテーション専門職大学紀要 2020: 1:17-21. https://doi.org/10.15028/kochirehadai.1.0_17
98. 津田泰路, 山崎裕司. 膝伸展筋力と下肢荷重率による高齢患者の独歩自立の判別. 高知リハビリテーション専門職大学紀要 2022: 3:17-21. https://doi.org/10.15028/kochirehadai.3.0_17
99. 津田泰路, 山崎裕司. 等尺性膝伸展筋力と下肢荷重率が高齢入院患者の歩行自立度に及ぼす影響 - 独歩自立例と独歩非自立例が混在する区分での検討. 高知リハビリテーション専門職大学紀要 2023: 4:19-22. https://doi.org/10.15028/kochirehadai.4.0_19
100. 上園紗映, 山崎裕司, 加藤宗規. 身体疾患を合併する精神疾患患者の自宅退院を規定する要因. 高知リハビリテー

調査研究

1. 石元美知子, 和田寿美, 瓜生浩子. 高次脳機能障害をもつ当事者の視点からみた社会適応. 高知リハビリテーション

- ション専門職大学紀要 2021; 2:1-5. https://doi.org/10.1502/kochirehadai.2.0_1
14. 上蘭紗映, 濱田賢二, 奥出聰, 古屋真美, 田中悠稀, 亀田南美, 林光俊, 山崎裕司, 加藤宗規. 精神科病院における飛び降り自殺未遂患者のリハビリテーション治療成績. 高知リハビリテーション専門職大学紀要 2022; 3:1-6. https://doi.org/10.15028/kochirehadai.3.0_1
 15. 山田純栄, 長瀧祥司, 水野準也. 心的傾向性の予測とその根拠となる身体動作について - リハビリテーションにおける観察の問題. 行動リハビリテーション 2015; 4:38-43. https://doi.org/10.60218/kodoreha.4.0_38
 16. 山中伸, 谷口京成, 浜岡克伺. 下肢切断者における退院後の追跡調査 - 退院後 3 ヶ月の身体機能・身体能力の変化について. 高知リハビリテーション専門職大学紀要 2020; 1:49-53. https://doi.org/10.15028/kochirehadai.1.0_49
 17. 山崎裕司, 西村涼, 柏智之, 宮崎登美子, 稲岡忠勝, 平賀康嗣, 栗山裕司, 片山訓博, 重島晃史. 片脚立ち上がり運動における 1Repetition Minimum の再現性. 高知リハビリテーション専門職大学紀要 2020; 1:55-58. https://doi.org/10.15028/kochirehadai.1.0_55
 18. 山崎裕司, 西田芽衣, 水田萌, 柏智之, 宮崎登美子. 足関節底屈筋力と片脚踵上げ反復回数の関連. 高知リハビリテーション専門職大学紀要 2021; 2:49-52. https://doi.org/10.15028/kochirehadai.2.0_49
 19. 山崎裕司, 柏智之, 宮崎登美子, 稲岡忠勝. ストレッチ時間が足関節背屈角度に与える影響. 高知リハビリテーション専門職大学紀要 2022; 3:27-31. https://doi.org/10.15028/kochirehadai.3.0_27
 20. 山崎裕司, 柏智之, 宮崎登美子, 稲岡忠勝. ハムストリングスに対する振動刺激とストレッチが柔軟性に与える影響. 高知リハビリテーション専門職大学紀要 2022; 3:37-40. https://doi.org/10.15028/kochirehadai.3.0_37

計測開発研究

1. 濱埜美羽, 鈴木誠, 岩崎優, 重村泰毅, 趙吉春, 山本淳一. 食事管理アプリケーションによる栄養素推定の妥当性 - 行動習慣改善のための評価尺度. 行動リハビリテーション 2024; 12:12-15. https://doi.org/10.60218/kodoreha.12.0_12
2. 柏智之, 宮崎登美子, 山崎裕司. 椅子座位における等尺性股関節外転筋力の測定 - 再現性の検討. 行動リハビリテーション 2020; 9:21-23. https://doi.org/10.60218/kodoreha.9.0_21
3. 中嶋風華, 中山智晴, 山崎裕司. Image J を用いた関節可動域測定における検者内再現性の検討. 高知リハビリテーション専門職大学紀要 2023; 4:23-26. https://doi.org/10.15028/kochirehadai.4.0_23
4. 笹村聰, 片山訓博, 稲岡忠勝, 有光一樹, 前田隼佑, 岩見一洋, 山田義久. 投球動作における 3 次元動作解析による運動学的検討. 高知リハビリテーション専門職大学紀要 2020; 1:1-8. https://doi.org/10.15028/kochirehadai.1.0_1
5. 鈴木健嗣, 三浦麻希. 着用型機器を用いた人々の相互作用行動の計測に基づく社会的交流支援. 行動リハビリテーション 2014; 3:2-12. https://doi.org/10.60218/kodoreha.3.0_2
6. 豊田輝, 山崎裕司, 加藤宗規. 片側大腿義足異常歩行分析における熟練者と初心者の観察方法の違いについて - モバイル型アイマークレコーダによる検討. 行動リハビリテーション 2013; 2:25-30. https://doi.org/10.60218/kodoreha.2.0_25
7. 津田泰路, 山崎裕司. 椅子座位での等尺性股関節外転筋力測定の妥当性 - 等尺性膝伸展筋力および仰臥位での等尺性股関節外転筋力との関連から. 行動リハビリテーション 2023; 11:10-13. https://doi.org/10.60218/kodoreha.11.0_10
8. 山崎裕司, 柏智之, 宮崎登美子, 稲岡忠勝. 椅子座位と仰臥位における等尺性股関節外転筋力の測定. 高知リハビリテーション専門職大学紀要 2023; 4:49-51. https://doi.org/10.15028/kochirehadai.4.0_49

総説

1. 在原菜々花, 鈴木誠, 磯直樹, 松本卓也, 斎藤和夫, 山本淳一. リズミック運動障害に対する新しい介入方法：交流電気刺激を用いた運動調節. 行動リハビリテーション 2025; 13:2-7.
2. 池聰, 上松智幸, 荒牧礼子, 光内梨佐, 有光一樹, 平賀康嗣, 明崎禎輝. 認知症予防に関する動向とリハビリテーション - ADL・摂食嚥下機能・食事の視点から. 高知リハビリテーション専門職大学紀要 2023; 4:1-10. https://doi.org/10.15028/kochirehadai.4.0_1
3. 北澤茂. 行動分析学の神経生理学的背景. 行動リハビリテーション 2013; 2:3-9. https://doi.org/10.60218/kodoreha.2.0_3
4. 是村由佳, 宮本真明, 遠藤晃祥, 森下浩充, 矢作満, 鈴木誠, 山本淳一. 行動リハビリテーション研究会映像配信班 - パフォーマンス分析によるミッション共有型映像配信モデル. 行動リハビリテーション 2013; 2:10-17. https://doi.org/10.60218/kodoreha.2.0_10
5. 松井剛, 上村朋美, 山崎裕司, 加藤宗規. すぐに使える介入パッケージ - 重症片麻痺者に対する立位保持練習. 行動リハビリテーション 2022; 10:24-25. https://doi.org/10.60218/kodoreha.10.0_24
6. 中山智晴, 山崎裕司, 古谷博和. すぐに使える介入パッケージ - 習引を用いた基本動作練習. 行動リハビリテーション 2022; 10:31-34. https://doi.org/10.60218/kodoreha.10.0_31
7. 西村周祐, 山崎裕司. 脳血管障害患者における座位練習の検討 - シングルケーススタディの分析. 行動リハビリテーション 2017; 6:8-12. https://doi.org/10.60218/kodoreha.6.0_8
8. 大森圭貢. シングルケース研究. 行動リハビリテーション 2022; 10:17-19. https://doi.org/10.60218/kodoreha.10.0_17
9. 斎藤和夫, 鈴木誠, 磯直樹, 岡部拓大, 趙吉春, 山本淳一. クロスリリアリティを用いた行動リハビリテーション教育の発展. 行動リハビリテーション 2024; 12:6-11.

https://doi.org/10.60218/kodoreha.12.0_6

10. 佐々木祥太郎. すぐに使える介入パッケージ - 重度機能障害例に対する介入. 行動リハビリテーション 2022; 10:39-43. https://doi.org/10.60218/kodoreha.10.0_39
11. 鈴木誠. 日常生活動作訓練について考える. 行動リハビリテーション 2012; 1:2-15. https://doi.org/10.60218/kodoreha.1.0_2
12. 鈴木誠. シングルケース研究の効果検証方法. 行動リハビリテーション 2022; 10:20-23. https://doi.org/10.60218/kodoreha.10.0_20
13. 山崎裕司. 基本動作練習の発展. 行動リハビリテーション 2020; 9:3-6. https://doi.org/10.60218/kodoreha.9.0_3
14. 山崎裕司, 加藤宗規. シングルケースを積み重ねて. 行動リハビリテーション 2022; 10:13-16. https://doi.org/10.60218/kodoreha.10.0_13
15. 山崎裕司. 対象者全員を自立へ導く新たな片麻痺者の歩行練習 - 健側下肢による患側下肢の振出し. 行動リハビリテーション 2024; 12:2-5. https://doi.org/10.60218/kodoreha.12.0_2

Jstage に掲載されていない論文

以下の論文は、印刷版のみで公開されており、J-STAGEには登載されていない（巻頭言を除く）。

1. 友利幸之介. 提言「Why」. 行動リハビリテーション 2013; 2:2.
2. 大森圭貴. チュートリアル：従来の日常生活活動評価の限界. 行動リハビリテーション 2014; 3:13-18.
3. 遠藤有紗. チュートリアル：評価方法の信頼性. 行動リハビリテーション 2014; 3:19-22.
4. 岡田一馬. チュートリアル：評価結果の活用課題分析と得点化による ADL 評価方法. 行動リハビリテーション 2014; 3:23-25.
5. 宮本真明. チュートリアル：行動分析に基づいた日常生活活動練習の効果. 行動リハビリテーション 2014; 3:26-33.
6. 古田裕太. チュートリアル：評価に基づく ADL の予後予測. 行動リハビリテーション 2014; 3:34-36.
7. 森下浩充. トピックス：応用行動分析学を基軸にした事業所を言語聴覚士が開設. 行動リハビリテーション 2020; 9:2.
8. 鈴木誠. 行動リハビリテーション研究会の 10 年間. 行動リハビリテーション 2021; 10:1-2.
9. 山本淳一. 行動リハビリテーションによる分野融合. 行動リハビリテーション 2021; 10:3-12.
10. 加藤宗規. これからの行動リハビリテーション研究会. 行動リハビリテーション 2021; 10:44.
11. 是村由佳. これからの行動リハビリテーション研究会. 行動リハビリテーション 2021; 10:45.
12. 杉村誠一郎. これからの行動リハビリテーション研究会. 行動リハビリテーション 2021; 10:46.
13. 矢作満. これからの行動リハビリテーション研究会. 行動リハビリテーション 2021; 10:47.